

【協定校推薦特別選抜】

平成 29 年度秋季入学  
平成 30 年度春季入学

弘前大学大学院理工学研究科  
博士後期課程

学生募集要項

弘 前 大 学

# 目 次

<b>1</b>	<b>学生募集要項（平成 29 年度秋季入学・平成 30 年度春季入学）</b>	
1	募集人員	1
2	出願資格	1
3	出願手続	2
4	選抜方法等	4
5	合格発表	4
6	入学手続	4
7	入学料及び授業料	4
8	その他	4
<b>2</b>	<b>大学院設置基準第14条に定める教育方法の特例について</b>	<b>5</b>
<b>3</b>	<b>長期履修制度</b>	<b>5</b>
<b>4</b>	<b>修業年限の短縮について</b>	<b>5</b>
<b>5</b>	<b>入学料及び授業料の免除・徴収猶予について</b>	<b>6</b>
<b>6</b>	<b>出願資格審査申請要領</b>	<b>7</b>
<b>7</b>	<b>弘前大学大学院理工学研究科博士後期課程の概要</b>	<b>8</b>
1	理工学研究科の構成	
2	専攻の概要及び教育研究内容	

## ◇出願用紙

志願票，受験票，写真票，「振替払込請求書兼受領証（写）」貼付台紙  
研究（希望）計画書  
修士論文の概要・研究業績の概要  
研究業績調書  
推薦書  
特別措置希望調書  
長期履修申請書  
出願資格審査申請書

## ◇検定料の払込みについて

## ◇お知らせ

## 入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）

### 弘前大学大学院理工学研究科＜博士後期課程＞

#### 1 概要

理学と工学の融合による基礎と応用の一体化を展開し、学際的課題を解決し得る教育研究を行い、目覚ましい進展を遂げる科学技術に柔軟に対応できる高度職業専門人及び研究者を養成することを目的としています。

#### 2 求める学生像

科学技術の高度化・多様化に順応できる幅広い視野を身に付け、目覚ましい進展を遂げる科学技術に柔軟に対応できる能力を修得しようとする人。

#### 3 入学者選抜の基本方針

博士後期課程で専門教育を受け研究を推進するための能力、適性、意欲等を評価するために、学力検査により入学者を選抜します。

### ◎機能創成科学専攻

#### 1 概要

現代の技術革新を支える新機能・高付加価値材料の創成とその高機能デバイス設計・開発を目指して、化学的手法を用いる機能材料科学と物理的手法を用いる材料プロセス工学の教育研究を推進し、自立して研究開発ができる研究者及び高度専門職業人の養成を教育の目標としています。

#### 2 求める学生像

新機能・高付加価値材料の創成とその高機能デバイス設計・開発に関して、自立して研究開発ができる研究者や高度専門職業人を目指す人。

#### 3 入学前に身に付けておいてほしいこと

科学技術の高度化・多様化に順応し得る能力を有すること。

### ◎安全システム工学専攻

#### 1 概要

自然と調和した安全な社会の構築に必要な能力を有し、自然環境の保全、地域社会の安全・安心の向上等に実践的に関わることができる研究者及び高度専門職業人の養成を教育の目標としています。

#### 2 求める学生像

地震・火山・異常気象等による自然災害から地域を守る自然防災、及びそれらの諸問題の解決に必要な環境解析、並びに人命や社会の安全に関わる安全科学、機器システムの安全性や信頼性に関わるシステム工学に興味を持ち研究意欲のある人。

#### 3 入学前に身に付けておいてほしいこと

理学、工学に関する基礎的及び専門的学力や、科学技術の高度化、多様化に対応できる能力を有すること。

# 1 協定校推薦特別選抜

## 学生募集要項（平成 29 年度秋季入学・平成 30 年度春季入学）

### 1 募集人員

専攻	専攻分野	平成 28 年度秋季入学	平成 29 年度春季入学
機能創成科学専攻	機能材料科学 材料プロセス工学	若干名	若干名
安全システム工学専攻	環境安全科学 システム工学	若干名	若干名

### 2 出願資格

次の（１）及び（２）の両方の事項に該当する者とします。

（１）本学の国際交流協定校出身の外国人留学生。（協定校に在籍又は協定校を卒業した者）。

（２）志望の専攻と関連する系統の専門教育を受けた者で、学業成績・人物ともに優れた者として本学の協定校の学長又は研究科長（学部長）から推薦され、合格した場合は入学を確約できる者。かつ、次の①～③のいずれかに該当する者とします。

① 修士の学位又は専門職学位を有する者、修士と同等の学位を有する者又は平成 30 年 3 月（平成 29 年度秋季入学志願者は、平成 29 年 9 月と読み替える。以下の各号において同じ。）までに取得する見込みの者。

② 協定校の大学を卒業した後、協定校の大学・研究所等において 2 年以上研究に従事した者で、当該研究の成果等により修士の学位を有する者と同等以上の学力があると本研究科において認められた者。

③ 本研究科において、個別の入学資格審査により修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者で、平成 30 年 3 月末までに 24 歳（平成 29 年度秋季入学志願者は、平成 29 年 10 月 1 日現在の年齢とする。）に達している者。（協定校の大学を卒業した後、科学・技術関係分野で 2 年以上業務経験がある者で、著書・学術論文・学術講演・学術報告・特許等において修士学位論文と同等以上の価値がある研究業績があると認められた者）

注）合格した場合であっても、入学時までに必要な条件が満たされないことが確定した者は入学を許可しません。

#### 《出願資格審査》

上記（２）②又は③により出願しようとする者は、**6**出願資格審査申請要領（5頁）により事前に出願資格の審査を受けてください。

### 3 出願手続

出願しようとする者は、下記の書類を一括とりそろえ所定の期日までに提出してください。

#### (1) 出願書類等

No.	書類の名称等	摘 要
1	志 願 票 等	本研究科所定の様式を使用し、必要事項を記入 (志願票・写真票・受験票・振替払込受付証明書貼付台紙)
2	修了(見込)証明書	出身大学の修士課程又は博士前期課程修了証明書あるいは修了見込証明書
3	成績証明書	出身大学の修士課程又は博士前期課程の成績証明書(厳封したもの)
4	研究(希望)計画書	本研究科所定の様式を使用し、研究を希望するテーマあるいは分野について、その目的及び構想を研究指導を希望する教員と相談の上、英語では300語、日本語では700字以内で記入 *指導教員の確認印を押してもらうこと。
5	修士論文の概要・研究業績の概要 (研究結果の概要・研究実施計画の概要)	本研究科所定の様式を使用し、 ① 修士課程、博士前期課程の修了者は修士論文の概要を記入し修士論文(コピー可)を添付 なお、課程修了後の年数が長い場合には、研究業績の概要及び論文別刷で修士論文に代えることができる。 ② 修了見込みの者は、出願時での研究結果及び修士論文提出時までの研究実施計画の概要を記入  *本研究科を修了した者は、修士論文の提出は不要 *出願資格(2)②又は③の者は提出不要
6	研究業績調書	研究希望テーマに関連する論文等がある場合は、本研究科所定の様式に年代順に記入し、代表的な学術論文等(コピー可)を添付
7	入学検定料	30,000円  日本国通貨により、本学指定の金融機関に払い込むこと。その振込の際発生する払込手数料は志願者の負担とする。 注) 海外から外国送金により検定料を納付する場合は、(3)外国送金による検定料の納入方法により手続きすること。  *国費外国人留学生は払込不要
8	住 民 票 等	・日本に在住の者は、市町村発行の「住民票」を提出 ・海外に在住の者は、その国の「戸籍謄本」又は「市民証明書」を提出  *国費外国人留学生は、「国費外国人留学生証明書」を添付すること。
9	推 薦 書	在学又は卒業した協定校での指導教員が作成し、その教員の署名があるもので、学長又は学部長の公印又は署名があるもの。

#### (2) 出願受付期間

**平成 29 年 6 月 5 日 (月) から 6 月 9 日 (金) まで**

\*窓口での受付は、各日とも午前9時から午後5時まで。

郵送による出願の場合も出願受付期間最終日必着とします。

### (3) 外国送金による検定料の納入方法

次の要領に従って、検定料 30,000 円を海外の金融機関から送付すること。なお、送金には時間がかかるので早めに手続きし、必ず出願期間の最終日までに指定口座に到着するように行うこと。

〈送金関連事項〉

- 【送金種類】 電信送金
- 【支払方法】 口座振替
- 【支払手数料】 依頼人負担
- 【送金金額】 30,000 円
- 【送金目的】 検定料

〈送金先〉

- 【金融機関名】 青森銀行
- 【支店名】 弘前支店
- 【口座の種類】 普通
- 【銀行住所】 〒036-8191 青森県弘前市親方町 19
- 【スイフトコード】 AOMB J P J T
- 【口座番号】 201-1228599
- 【口座所有者名】 国立大学法人弘前大学 学長 佐藤 敬
- 【口座所有者住所】 〒036-8560 青森県弘前市文京町 1 番地
- 【口座所有者電話番号】 0172-36-2111

※送金依頼人は志願者の氏名とすること。

※日本国外から振込む場合、振込には別途「送金手数料」と「日本国内取引手数料」が必要となる。この送金手数料及び日本国内取引手数料は「依頼人負担」となる。

※日本国内取引手数料は、銀行窓口で必ず「依頼人負担」と指定すること。もし指定が行われなかった場合、青森銀行で取引手数料が差し引かれるため、弘前大学への入金が不足となる。この場合検定料を支払ったとは、みなされないので注意すること。

※送金後、送金手続き書類の（写）を他の出願書類と一緒に提出すること。

### (4) 出願書類提出先

弘前大学学務部入試課  
〒036-8560 青森県弘前市文京町 1 番地  
TEL 0172-39-3973, 3193

申請書類等の提出方法は、持参または郵送とします。

国内から郵送する場合は、「書留速達郵便」とし、封筒の表に「理工学研究科博士後期課程（協定校推薦）出願書類在中」と朱書きしてください。

国外から郵送する場合は、EMS(国際スピード郵便)にしてください。

### (5) 出願上の注意事項

- ① 出願の際は、事前に希望する指導教員と連絡をとってください。
- ② 出願書類に不備のあるものは受理しませんので、記載事項に記入漏れ、誤記等のないよう十分注意してください。
- ③ 出願に関して不明な点がある場合は、入学検定料を払い込む前に学務部入試課へ問い合わせてください。
- ④ 出願後の専攻の変更は認めません。
- ⑤ 出願後に現住所等に変更があった場合は、すみやかに連絡してください。
- ⑥ 受理した出願書類等は、いかなる理由があっても返還しません。

## 4 選抜方法

入学者の選考は、提出された書類で行います。

## 5 合格発表

合格者の受験番号を下記により発表するとともに、合格者には合格通知書を郵送します。なお、電話等による合否の問い合わせには一切応じません。

日 時 平成 29 年 7 月 20 日 (木) 午前 10 時 (予定)

場 所 弘前大学学務部入試課前掲示板

※ 情報提供の一環として、本学ホームページ上にも合格者の受験番号を掲載します。

URL : <http://www.hirosaki-u.ac.jp/~nyu/>

## 6 入学手続

入学手続きの詳細については、合格者へ別途通知します。

## 7 入学料及び授業料

入 学 料 282,000 円 (予定)

授業料前期分 267,900 円 (予定) 後期分 267,900 円 (予定)

注 1) 入学料と併せて授業料を納入することができます。春季入学者は、前期分に併せて後期分の授業料も納入することができます。

注 2) 入学料の改定が行われた場合には、改定時から新しい入学料が適用となります。また、授業料の改定が行われた場合には、改定時から新しい授業料が適用となります。

注 3) いかなる理由があっても、納付した入学料は返還しません。

注 4) 国費外国人留学生は、入学料及び授業料の納入は不要です。

## 8 その他

- (1) 出願書類等に記載された、志願者の住所・氏名・生年月日その他の個人情報、入学者選抜、合格発表、入学手続き及びこれらに付随する事項ならびに入学後の学務業務における学籍・成績管理、入学者選抜や教育課程改善のための調査・研究を行うために利用するものとします。また、取得した個人情報は適切に管理し、利用目的以外に利用しません。
- (2) 身体に障害を有する者で、受験上及び修学上特別の配慮を必要とする者は、事前に学務部入試課へ申し出てください。

## 2 大学院設置基準第 14 条に定める教育方法の特例について

### 1 趣旨

近年、科学技術の進歩に伴い、大学院における社会人技術者、教育者、研究者の再教育への要請が高まっています。しかし、通常の方法のみで大学教育を実施した場合、社会人は最低 3 年間その勤務場所を離れて修学する必要があるため、大学教育を受ける機会が制約されがちです。

このため、大学院設置基準第 14 条では、「大学院の課程においては、教育上特別の必要があると認められる場合には、夜間その他特定の時間又は時期において授業又は研究指導を行う等の適当な方法により教育を行うことができる。」旨規定され、社会人技術者、教育者、研究者の修学に特別措置を行うことができるよう配慮がなされています。

これを踏まえ、本学大学院理工学研究科では、大学院での履修を希望する社会人に対し、大学院設置基準第 14 条に定める特例による教育を実施しています。

## 2 昼夜開講制と教育方法の特例について

本研究科（博士後期課程）では、社会人学生を対象に大学院設置基準第14条の規定による教育方法の特例として、昼夜開講制を実施します。

この募集要項に基づき本研究科（博士後期課程）に入学する者は、弘前大学大学院理工学研究科規程に定められた通常の教育課程に基づく履修のほか、研究科担当教員の指導のもとに、夜間及び土曜日等を利用した特別の履修計画に従い修学することができます。この特例を適用する場合には、入学時に3年間の履修計画をたてることとなりますので、履修上特別の配慮を希望する者は、あらかじめその希望を提出の上で受験することとします。

昼夜開講制による具体的な履修方法は、次のとおりです。

- (1) 入学時に、指導教員の指導のもとに3年間を見通した履修計画を作成する。
- (2) 特例による授業時間帯は、原則として夜間（18時00分から19時30分まで及び19時40分から21時10分まで）ならびに土曜日に設定するものとし、当該授業担当教員と履修希望学生の実情に即して柔軟に設定するものとする。
- (3) 遠隔地の居住者、勤務時間の都合等の事情により、夜間及び土曜日における授業時間だけでは履修することが困難である者に対しては、特別の時間又は長期休業期間等特定の時期に履修できるよう配慮する。

## 3 手続き方法について

大学院設置基準第14条の規定による教育方法の特例による教育を希望する者は、予め、希望する指導教員と相談の上、本研究科所定用紙（特別措置希望調書）に必要事項を記入して他の出願書類と併せて提出してください。

## 3 長期履修制度

職業を有しているために、標準の修業年限では本研究科の課程を修了することが困難である場合、希望により修業年限を延長し、かつ、その間の授業料の負担を軽減することができます。長期履修学生を希望する者は、事前に希望する指導教員と相談の上、本研究科所定用紙（長期履修申請書）に必要事項を記入して他の出願書類と併せて提出してください。

## 4 修業年限の短縮について

本研究科（博士後期課程）では、社会人学生を対象に、入学試験時に修業年限の短縮を希望することができます。

修業年限の短縮を希望する者は、事前に希望する指導教員と相談の上、申請してください。「長期履修制度」及び「修業年限の短縮」についての詳細及び申請方法は、下記へお問い合わせください。

弘前大学理工学研究科 教務担当  
TEL 0172-39-3930



## 5 入学料及び授業料の免除・徴収猶予について

入学料及び授業料については免除・徴収猶予制度があります。

「入学料」・「授業料」 免除・徴収猶予	経済的理由により納付が困難であり、かつ、学業優秀と認められる場合のほか、入学前1年以内において、学資負担者が死亡又は風水害等の災害を受けた場合等の特別な事情により納付が著しく困難であると認められる場合は、本人の申請に基づき選考の上、入学料の免除（半額）・延納、授業料の免除（全額又は半額）・徴収猶予（延納又は月割分納）を許可されることがあります。
------------------------	---

合格発表から入学手続日までの期間が短い場合、免除・徴収猶予を希望する者は、あらかじめ（合格発表前であっても）申請書類を請求し、記入した申請書類に同一生計者の所得証明書をはじめとする必要書類を添えて、入学手続時に申請してください。

秋季入学の入学料免除は入学料納付対象者数により予算が決まるので、入学料納付対象者数が少なく、免除できる予算が入学料の半額に満たない場合、徴収猶予のみとなります。

### ◆ 郵送による申請書類の請求

請求する封筒の表に「入学料免除等申請書類請求」又は「授業料免除等申請書類請求」と朱書きし、「角形2号の返信用封筒」及び「受験者氏名、志願研究科、連絡先電話番号（携帯電話番号可）」を明記したメモを同封の上、送付してください。

(1) 返信用封筒には「宛先（受験者の住所・氏名）」を記入し、205円分（速達の場合は485円分）の切手を貼ってください。ただし、入学料と授業料の両方の免除等申請書類を請求する場合は、250円分（速達の場合は530円分）の切手になります。

(2) 入学料免除等・授業料免除等申請書類請求期間

平成29年度秋季入学：平成29年7月5日（予定）～

平成30年度春季入学：平成30年1月19日（予定）～

※入学料免除等申請書類の提出期限は入学手続日ですので、早めに請求してください。

### ◆ 窓口での申請書類の受取

上記の請求期間から学生課窓口でも配付します。できるだけ受験者本人が受け取るようにお願いします。窓口では受験者であること申し出てください。

受験者氏名、志願研究科、連絡先電話番号等の記入が必要です。

### ◆ 申請書類の請求先（問い合わせもこちらまで）

〒036-8560

青森県弘前市文京町1 弘前大学学務部学生課 生活支援グループ

電話：0172-39-3117

時間：平日 9:00～17:00

※ 申請書類の配付は文京町地区の「学務部学生課」のみで行います。

## 6 出願資格審査申請要領

### 1 該当者

秋季入学，春季入学ともに，出願資格（2）の②又は③に該当する者

### 2 提出書類等

No.	書類等	摘要
1	出願資格審査申請書	本学所定用紙に必要事項を記入
2	添付書類 ・ 出身大学等の卒業証明書 ・ 出身大学等の成績証明書（厳封） ・ 論文，著書等の別刷またはコピー	出願資格「有」と認定された場合は，出願書類提出時に再度提出する必要はありません。 また，いかなる理由があっても返還しません。

### 3 提出方法

申請書類等の提出方法は，持参または郵送とします。

国内から郵送する場合は，「書留速達郵便」とし，封筒の表に「理工学研究科博士後期課程出願資格審査申請書類在中」と朱書きしてください。

国外から郵送する場合は，EMS(国際スピード郵便)にしてください。

### 4 受付期間

出願受付開始日の1ヶ月前までに申請書類一式を提出すること。

### 5 提出先

弘前大学学務部入試課

〒036-8560 青森県弘前市文京町1

TEL 0172-39-3973, 3193

FAX 0172-39-3125

### 6 審査方法及び結果通知

提出書類による審査を行い，更に必要な場合には電話で照会することもあります。

出願資格審査の結果は，本人あてに通知します。

# 7 弘前大学理工学研究科博士後期課程

## 1 理工学研究科の構成等

理工学研究科博士後期課程の構成、及び参考として博士前期課程の構成を以下に示す。

博士後期課程	専攻	専攻分野	(参考)	専攻	コース
		機能創成科学専攻			機能材料科学
	安全システム工学専攻	材料プロセス工学		物理科学コース	
		環境安全科学		物質創成化学コース	
		システム工学	地球環境学コース		
			電子情報工学コース		
			知能機械工学コース		
			新エネルギー創造工学コース		
			社会人入学特別コース		

連携大学院

2007年4月より弘前大学大学院理工学研究科博士後期課程に「連携大学院」が発足しました。この制度は青森県内等にある国立・民間企業等の研究所等と連携を図り、これらの研究者を併任教員等として迎えるとともに、学生は当該研究所において研究指導を受けることができるようにしようとするものです。この制度の発足により、大学院教育の一層の充実と学生の資質の向上、そして諸研究機関との交流の促進による、学術及び科学技術の発展と、地域貢献への寄与が増大されることを期待しております。

なお、地方独立行政法人青森県産業技術センター工業総合研究所および八戸工業高等専門学校と連携大学院の協定を結んでおります。

## 2 専攻の概要及び教育研究内容

### ◆機能創成科学専攻

新材料の創造、材料の極限状態の探求等に関する材料科学と関連技術の進展は著しい。広く科学技術の発展を促すのは、新機能をもつ高付加価値材料の創成であり、その基礎を支えているのは物理学、化学及び学際領域を含むそれらの応用科学である。この状況に対応するため、基礎と応用、更に学際領域にも十分に配慮し、かつ、地域で進んでいる新たな研究施設計画やプロジェクトとの連携も考慮に入れた教育研究の新しい体制が必要である。機能創成科学専攻の目指すところは、材料を中心に据えて、様々な角度から材料を把握するための基礎教育研究を行うとともに、既存の材料を新規な場において新しい機能を発現させる研究や、新規材料を合成し、その機能評価と利用を進めること等、新しい領域を切り開く研究等を通じて、新しい体制を構築することである。

本専攻では理工融合を推し進める観点から、主に化学的手法を用いる機能材料科学と主に物理的手法を用いる材料プロセス工学という2つの専攻分野で構成し、広い意味でのもの作りに柔軟に対処できるよう教育研究を推進し、自立して研究開発ができる研究者や、企業の即戦力として研究開発からその成果を生産にまで結びつけることができる高度専門職業人を育成する。

### (1) 機能材料科学

機能性物質や新素材の開発は、持続可能な社会を構築するため求められる、環境にやさしいシステムを導入する視点からも必要不可欠である。機能材料科学専攻分野においては、機能性物質や新素材の開発に必要な、物質の機能発現機構の解析や物質のキャラクタリゼーション、物質の合成及び機能の発現の場の創製等に関する基礎的な教育研究を行うとともに、物質のもつ機能をデバイス産業の創製・発展に応用し、さらに環境問題の解決に応用できる人材を育成する。

教員名	研究内容	授業科目
教授 阿部 敏之	新規な可視光応答電極及び多電子過程分子触媒の開発に立脚した光化学エネルギー変換システムの創製研究	エネルギー変換機能分子特論
教授 伊東 俊司	機能性発現に向けた有機化合物の分子設計と合成化学的手法を用いた機能性有機化合物の創出に関する研究	有機機能化学特論
教授 岡崎 雅明	遷移金属/典型元素相乗系錯体及びクラスターの創製と機能開拓	遷移金属クラスター-化学特論
教授 澤田 英夫	新しいフッ素の機能が活かされたフッ素系高分子機能性材料の開発とその応用に関する研究	機能材料科学
教授 糠塚 いそし	化学分析のための固相抽出に基づく前処理系の開発と小型システム化及び新規分析システムの開発に関する研究	システム分析科学
教授 吉澤 篤	液晶相における新しい秩序の構築と機能発現を目指した材料開発に関する研究	分子材料工学特論

教員名	研究内容	授業科目
准教授 川 上 淳	光機能性有機化合物の分子設計と合成及びその応用に関する研究	分子認識化学特論
准教授 北 川 文 彦	ミクロスケール電気泳動を基盤とした高性能分離・高感度検出集積化システムの開発	最先端機器分析特論
准教授 鷺 坂 将 伸	新規機能性分子集合体の構築とその応用技術の開発	自己組織化特論
准教授 種 田 晃 人	人工知能を応用した生体分子及びナノスケール物質の研究	計算生命物質科学
准教授 萩 原 正 規	生物有機化学研究を基盤とした生体分子の機能化研究とその応用技術開発	生体機能化学特論
准教授 宮 本 量	分子設計に基づく遷移金属・希土類金属錯体の電子状態あるいはスピン状態の制御に関する構造化学的研究	電子スピン科学特論

## (2) 材料プロセス工学

地域産業の振興には、地域に密着した新規技術の創出が重要な足掛かりとなる。これら革新的な技術の実現のためには、それを先導する材料技術が不可欠である。材料プロセス工学専攻分野は、電子や光子のような量子系の基礎科学とその機能性に関する基礎及び応用研究により、それを達成することである。半導体量子構造、表面・界面、薄膜や多層膜、磁性材料等の諸物性の解明を基礎に、材料自身が機能をもつ高機能材料やその加工プロセスの開発を行い、新規材料の機能発現機構の解明と新規材料開発へのフィードバックを軸に、材料開発で指針となる共通の材料創製・評価に関する学問体系の教育研究を行うとともに、地域の次世代産業の開拓を担う人材を育成する。

教員名	研究内容	授業科目
教授 今 井 雅	ディペンダブル計算機システムの構築に必要な高信頼 LSI 設計技術及びシステム設計技術の開発に関する研究	高信頼 LSI 論理設計特論
教授 岡 本 浩	半導体デバイスの要素技術、物性評価技術の研究、並びに光通信システムへの応用に関する研究	光半導体デバイス特論
教授 加 藤 博 雄 *平成 30 年 3 月定年退職	放射光利用による固体表面電子構造の分光学的研究	放射光固体分光学特論
教授 黒 川 敦	ナノエレクトロニクスやパワーエレクトロニクス分野に必要な集積回路の最新設計技術の開発	システムLSI物理設計特論
教授 小 林 康 之	新規半導体の開発及びそれを用いたグリーンデバイスに関する研究	先端グリーンデバイス特論
教授 笹 川 和 彦	微小材料システム (LSI, MEMS) の機能・信頼性評価法の開発と医療・福祉機器機能評価の生体力学研究	材料システム評価学特論
教授 佐 藤 裕 之	ナノ・メゾ構造を持つ機械材料の創製と強化、強度と寿命評価、微細な機械構造の成形と構成に関する研究	強度材料学特論
教授 藤 川 安 仁	多探針走査トンネル顕微鏡及び光電子顕微鏡を使用した表面・薄膜・ナノ構造の構造解析と電子物性の研究	表面顕微科学特論
教授 宮 永 崇 史	物質構造のダイナミクス (相転移, 化学反応, 表面過程など) に対する放射光を用いた局所構造的な研究	物質構造のダイナミクス解析
教授 渡 辺 孝 夫	高温超伝導体を始めとする強相関物質の単結晶育成とその物性に関する研究	高温超伝導物理学
准教授 小豆畑 敬	窒化インジウムガリウムを始めとする半導体の光物性及びその応用デバイスに関する研究	光物性工学特論
准教授 任 皓 駿	放射光を用いた分光法による強相関電子系の物性研究	電子相関物理特論
准教授 遠 田 義 晴	半導体電子デバイスに関わる表面反応素過程, 薄膜成長, 表面処理, 及び半導体表面・界面の電子状態に関する研究	固体表面ダイナミクス特論
准教授 紙 川 尚 也	高強度・高延性を両立する先進構造金属材料の開発	金属組織制御学特論
准教授 御 領 潤	凝縮系物理学理論 主に超伝導など	固体電子論特論

教員名	研究内容	授業科目
准教授 鈴木 裕 史	固体を中心とした物質界面及び超薄膜・ナノ微粒子における特異な増大局在場及び局所構造に関する研究	界面物性特論
准教授 手塚 泰 久	高エネルギー分光を用いた強相関物質・誘電体等の電子構造の研究, 及び軟X線分光の研究	高エネルギー光物性特論
准教授 中澤 日出樹	炭素系高機能薄膜材料の作製と構造・物性, 及びその電気的・機械的応用に関する研究	半導体材料プロセス工学特論
准教授 花田 修 賢	固体(主に透明材料)のレーザー微細加工や光バイオ医用工学(バイオチップの作製や本バイオチップを用いた生体試料の光計測)	レーザープロセッシング特論
准教授 藤崎 和 弘	工業材料, 医用材料, 生体組織のマルチスケール形態解析とマイクロ・ナノ力学特性計測に関する研究	信頼性材料工学特論
併任教授 伊高 健 治	太陽電池や熱電変換物質の材料化学, 薄膜エネルギー変換材料に関する研究	光・熱エネルギー変換特論
併任准教授 久保田 健	非平衡相制御による高性能磁性合金の創製及びそのエネルギーデバイスに関する研究	電磁エネルギー材料工学特論

## ◆安全システム工学専攻

社会が高度化されるほどシステムは複雑化しその規模も拡大するため、システムの一部に生じた障害・破綻による被害や影響は甚大なものとなる。自然と調和した豊かな社会の構築には、自然防災や社会的防災に対する危機管理やセキュリティ対策等に関する総合的・学際的な見地からの取り組みが要求される。本専攻は、白神山地に代表される青森県の自然環境の保護や地震・火山・異常気象等による自然災害から地域を守る自然防災に総合的に取り組む環境安全科学と、人命や社会の安全、機器システムの信頼性・安全性に関わるシステム工学の2つの専攻分野より構成されている。本専攻では、地域社会の質向上と同時に、地域の安全管理に実践的に関わることのできる研究者や高度専門職業人を養成する。

### (1)環境安全科学

地球環境問題は、国や地域の枠を超えた全社会的問題である。地震・火山・異常気象等による災害の発生機構の究明や自然災害に対する対応、対策についての教育研究は、地域にとつてのみならず、世界有数の地震国、火山国である日本や関連諸国にとつても重要課題である。さらに、このような地球環境問題や自然災害を的確に把握するためには、衛星によるリモートセンシングや画像解析といった環境解析技術が欠かせない。

以上のようなグローバルなニーズと地域社会への貢献をふまえ、特に地域社会にとって重要課題である自然防災、およびそれらの諸問題の解決に必要な環境解析の教育研究に特化した専攻分野として環境安全科学専攻分野を設立し、人間環境とそれを取り巻く地球環境の問題に取り組み、地域に貢献できる高度専門職業人および研究者を養成する。

教員名	研究内容	授業科目
教授 浅田 秀 樹	理論宇宙物理学, 主に, 宇宙論(ダークエネルギーやダークマター問題等)及び一般相対性理論を含む重力理論に関する研究	現代宇宙物理学特論
教授 葛西 真 寿	一般相対論的宇宙論, 特に非一様宇宙における光の伝播と重力レンズ効果の研究	観測的宇宙論特論
教授 小菅 正 裕	地震の発生メカニズムと地震波の伝播, 及び東北日本の地震テクトニクスの研究	地球内部構造特論
教授 児玉 安 正	降水(雨・雪)のメカニズム, レーダーや衛星による降水のリモートセンシング, 降水に伴う潜熱加熱と大気循環	降水気象学特論

教員名	研究内容	授業科目
教授 野尻 幸宏	地球表層を構成する大気・水圏・生物圏の物質循環に関する研究として、海洋物質循環、海洋酸性化、温室効果ガス観測、温室効果ガス排出吸収量算定など	地球環境物質循環特論
准教授 市村 雅一	銀河宇宙線の起源・加速・伝播機構に関する研究及び高エネルギー粒子検出器やデータ解析システムの研究開発	宇宙放射線特論
准教授 片岡 俊一	強震動予測及び地盤が地震動に及ぼす影響に関する研究	地震工学特論
准教授 上原子 晶久	材料劣化が生じた鉄筋コンクリート構造物の非線形解析手法、時間軸を考慮した鉄筋コンクリート構造物の補修・補強効果の定量評価	維持管理工学特論
准教授 高橋 信介	モンテカルロ法による高エネルギー宇宙線の研究、大広域空気シャワーの観測・研究、及び熱蛍光技術による宇宙線粒子検出の研究	計算宇宙線物理学特論
准教授 丹波 澄雄	海洋の情報、特に広域温度分布情報を衛星リモートセンシングから正確に抽出するための種々の補正方法に関する研究	海洋リモートセンシング特論
准教授 津村 浩三	建築構造物の耐震性能、補強方法、非線形挙動に関する研究	耐震工学特論
助教 仙洞田 雄一	理論物理学の手法による宇宙論及び重力理論の研究	宇宙素粒子物理学特論
助教 高橋 龍一	宇宙論、ダークエネルギー、重力レンズ、重力波に関する研究	宇宙進化特論
併任准教授 井岡 聖一郎	地下水水文学、地下水化学、地下水熱学、地熱資源量評価、地熱利用に関する研究及び環境地下水学	地下流体科学特論

## (2) システム工学

豊かな地域社会づくりを目指して、利便性・高付加価値性と信頼性・安全性が両立するような科学技術の進展とシステムの開発が求められている。環境に低負荷な生活・生産の実現のためには新材料や高機能な機器システムの開発が必要である。また、科学技術の進展のなかで、災害防止や事故防止などとともに、広くシステムの信頼性・安全性を高めることが求められている。また、地域社会の利便性や生産活動の観点からは、経済・社会・文化の一極集中化と複雑化に対処できるネットワークの運用が必要である。一方、インターネットの急速な進展は、地域において情報型の新産業を創出するに有利な条件となっており、このような地域産業への貢献も求められている。

本専攻分野では、人命や社会の安全に関わる安全科学、機器システムの安全性や信頼性を評価する危機管理工学、極限環境で活躍する知能ロボットやセンサー開発のためのロボティクス、社会安全のネットワークや最適化のためのシステム評価を通して、安全性、信頼性の高い社会環境の構築を支える高度専門職業人および研究者を養成する。

教員名	研究内容	授業科目
教授 阿布里提	燃料電池の材料(触媒・電極・電解質)、積雪寒冷地における廃熱回収利用システムの構築、及びバイオマス変換利用に関する研究	燃料電池工学特論
教授 稲村 隆夫 *平成31年3月定年退職	液体微粒化過程のモデリング及び噴霧の生成、流動、蒸発、燃焼に関する実験的、数値解析的研究	振動燃焼工学特論
教授 小野口 一則	画像監視、車載画像認識、三次元形状復元などを中心としたコンピュータビジョンに関する研究・開発	三次元画像認識特論
教授 榊 真	曲線・曲面・部分多様体の幾何学、幾何学的変分問題	曲線・曲面論特論
教授 佐川 貢一	スポーツ、医学、福祉分野などに資する人間の動作計測法および評価法に関する研究	医用計測制御工学特論
教授 丹原 大介	有限群とその表現のカテゴリカルな見地からの研究	群表現特論
教授 津田谷 公利	非線形波動の漸近解析、非局所的に相互作用を及ぼす波動の解析	偏微分方程式特論

教員名	研究内容	授業科目
教授 中 里 博	行列で表示される有限次元線形システムの数域, 一般化数域についての凸解析的な研究	行 列 解 析 特 論
准教授 岩 谷 靖	視覚に基づくロボット制御	知能ロボティクス特論
准教授 金 正 道	さまざまなタイプの最適施設配置問題の理論的考察及び解を求めるための効率的なアルゴリズムの開発に関する研究	数 理 計 画 特 論
准教授 立 谷 洋 平	マーラー関数の値の代数的独立性の研究, 及びその応用	超 越 数 特 論
准教授 長 瀬 智 行	安全確保のための信号処理の研究, 及び情報通信と情報セキュリティに関する研究	セキュリティ信号処理特論
准教授 別 宮 耕 一	誤り訂正符号とそれに関する離散構造, 組合せ構造に関する研究	離散アルゴリズム特論
准教授 水 田 智 史	遺伝符号の進化, およびアライメントに依らない配列の類似性評価に関する, 生命情報学的アプローチによる研究	生命情報解析学特論
助教 江 居 宏 美	様々な手法により決定されるフラクタル図形とそれを用いた準周期タイリングの研究	離散力学系特論
併任教授 官 国 清	バイオマスエネルギー転換技術, エネルギー材料, 環境触媒, ガス・金属イオンの分離技術, マイクロリアクター, LCA評価に関する研究	エクセルギー工学特論

平成 29 年度秋季入学・平成 30 年度春季入学  
弘前大学大学院理工学研究科（博士後期課程）【協定校推薦特別選抜】

## 志 願 票

		受験番号	※			
ふりがな		生 年 月 日		性 別		
氏 名		西 暦	年	月	日 生 ( 満 歳 )	男 ・ 女
志望専攻名		志望専攻分野名		希望する指導教員名		
入 学 年 月	<input type="checkbox"/> 平成29年度秋季入学		<input type="checkbox"/> 平成30年度春季入学			
出身大学等	国立 公立 私立	大 学	学 部	学 科 課 程 専 攻 科		
			西 暦	年	月 ( 卒 業 )	
	国立 公立 私立	大 学 大 学 院	研 究 科 ( 修 士 ・ 博 士 前 期 課 程 )			
			専 攻	西 暦	年	月 ( 修 了 ・ 修 了 見 込 )
出 願 者 所 現 住 所 ( 連 絡 先 )	〒 _____ 住 所  電 話 ( _____ ) - ( _____ ) - ( _____ )					
出 願 資 格	① ② ③ (1頁1-2「出願資格」(2)の該当番号を○で囲んでください。)					
外国人志願者 記 入 欄	国 籍		留 学 経 費 区 分	私 費 ・ 国 費 ・ そ の 他		
有 識 者 記 入 欄	勤務先名称 勤務先住所〒 _____  電 話 ( _____ ) - ( _____ ) - ( _____ )					
大学院設置基準第 14 条 による 特別措置希望	<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	長 期 履 修 制 度 希	<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	修 業 年 限 短 縮 申 請 希 望	<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	

注 1) ※欄は記入しないでください。□欄には、該当する項目にチェックしてください。

注 2) 記入は、黒のペン又はボールペンを用いて楷書で記入してください。

注 3) 志望する専攻分野名及び希望する指導教員名の記入については、学生募集要項の理工学研究科博士後期課程の概要を参照してください。また、希望する指導教員と事前に連絡を取ってください。

※入試課記入欄

提出書類等確認欄			受付年月日
<input type="checkbox"/> 志願票 <input type="checkbox"/> 受験票 <input type="checkbox"/> 写真票 <input type="checkbox"/> 検定料払込票 無 { <input type="checkbox"/> 進学者 <input type="checkbox"/> 国費外国人留学生	<input type="checkbox"/> 修了(脱)証明書 <input type="checkbox"/> 成績証明書 <input type="checkbox"/> 研究(希望)計画書 <input type="checkbox"/> 修士論文等概要 <input type="checkbox"/> (研究業績調書) <input type="checkbox"/> 推薦書	<input type="checkbox"/> 住民票等 <input type="checkbox"/> (国費外国人留学生証明書) <input type="checkbox"/> 特別措置希望調書 <input type="checkbox"/> 長期履修申請書	(備考)

(裏面へ)



(裏面)

履 歴 事 項

履 歴 事 項				
学 歴	西暦	年	月 入学	
	西暦	年	月 卒業	
	西暦	年	月 入学	
	西暦	年	月 卒業	
	西暦	年	月 入学	
	西暦	年	月 卒業	
	西暦	年	月 入学	
	西暦	年	月 卒業	
	西暦	年	月 入学	
	西暦	年	月 修了・修了見込	
研 究 歴	西暦	年	月 から	
	西暦	年	月 まで	
	西暦	年	月 から	
	西暦	年	月 まで	
	西暦	年	月 から	
	西暦	年	月 まで	
職 歴	勤務期間		勤務先名称	職 種
	年	月	から	
	年	月	まで	
	年	月	から	
	年	月	まで	
	年	月	から	
	現在に至る			
資格・免許等	西暦	年	月	
	西暦	年	月	
賞 罰	西暦	年	月	

注 1) 学歴欄には、小学校以上の学校名を省略せずに記入してください。

注 2) 研究生等の履歴がある場合は、学歴欄に記入してください。

注 3) 履歴中に虚偽の事項を記載し、又は当然記載すべき事項を記入しなかったことが入学後に判明した場合には、入学許可を取り消すことがあります。

- 平成 29 年度秋季入学
- 平成 30 年度春季入学

弘前大学大学院理工学研究科（博士後期課程）

**【協定校推薦特別選抜】**

**受 験 票**

受験番号	※
志望専攻名	専攻
ふりがな	
氏 名	

写 真

4 cm×3 cm

出願前 3 ヶ月以内に  
撮影した正面向き  
上半身脱帽のもの。

裏面に氏名を記入する  
こと。

- 注 1) 試験当日、必ず持参すること。
- 注 2) 入学手続完了まで保管すること。

○ ○

- 平成 29 年度秋季入学
- 平成 30 年度春季入学

弘前大学大学院理工学研究科（博士後期課程）

**【協定校推薦特別選抜】**

**写 真 票**

受験番号	※
志望専攻名	専攻
ふりがな	
氏 名	

写 真

4 cm×3 cm

出願前 3 ヶ月以内に  
撮影した正面向き  
上半身脱帽のもの。

裏面に氏名を記入する  
こと。

- 平成 29 年度秋季入学
- 平成 30 年度春季入学

弘前大学大学院理工学研究科（博士後期課程）

**【協定校推薦特別選抜】**

「振替払込請求書兼受領証（写）」

**貼 付 台 紙**

◆ 「振替払込請求書兼受領証（日付印が押印されたもの）」の写  
を貼付してください。◆

受験番号	※
志望専攻名	専攻
ふりがな	
氏 名	

※欄は記入しないでください。

# 研究（希望）計画書

		受験番号	※
ふりがな	生年月日		性別
氏名	西暦 年 月 日 (満 歳)		男・女
志望専攻名	志望専攻分野名	希望する指導教員名	<input type="checkbox"/> 平成 29 年度秋季入学 <input type="checkbox"/> 平成 30 年度春季入学
研究（希望）課題			
研究（希望）計画の概要			
注3) 指導予定教員 印			

注 1) ※欄は記入しないこと。

注 2) 英語で 300 語，日本語では 700 字以内で具体的かつ簡明に記入すること。

なお，社会人にあつては，希望する研究実施形態についても記入すること。

注 3) 希望する指導教員の確認印を押してもらうこと。

# 修士論文の概要・研究業績の概要 (研究結果の概要・研究実施計画の概要)

		受験番号	※
ふりがな	生年月日		性別
氏名	西暦	年	月 日 (満 歳)
志望専攻名	志望専攻分野名	希望する指導教員名	<input type="checkbox"/> 平成 29 年度秋季入学 <input type="checkbox"/> 平成 30 年度春季入学

注 1) ※欄は記入しないこと。

注 2) 修士論文の概要・研究業績の概要を 1,000 字程度で具体的かつ簡明に記入すること。

注 3) 修士(博士前期)課程修了見込みの者は、出願時までの研究結果の概要及び論文提出時までの研究実施計画の概要を記入すること。

# 研究業績調書

		受験番号	※
ふりがな		生年月日	
氏名		西暦 年 月 日 (満 歳)	
志望専攻名	志望専攻分野名	希望する指導教員名	<input type="checkbox"/> 平成 29 年度秋季入学 <input type="checkbox"/> 平成 30 年度春季入学
学術論文題名, 著書, 学会, 討論会, 国際会議等での研究 発表題名及び特許・発明等の名称		発表論文誌の名称, 巻, 頁, 発表年 (印刷中または 投稿中の場合は, その旨を記入すること。)	共著者または共同発表者氏 名 (本人を含めて上から発 表順に記すこと。)
		発表学会, 討論会, 国際会議等の名称及び発表年月	

- 注 1) ※欄は記入しないこと。  
 注 2) 研究希望テーマに関連する論文等を年代順に記入すること。  
 注 3) 学術論文等 (コピー可) を添付すること。

受験番号

※

弘前大学長 殿

## 推 薦 書

弘前大学大学院理工学研究科（博士後期課程）入学志願者 \_\_\_\_\_ を協定校推薦特別選拔出願要件に該当するものと認め、下記により推薦します。

年 月 日

(所属機関名)

推薦者 (所在地)  
(指導教員)

(職名・氏名)

印

◎ 入学志願者の研究経過，研究計画に対する所見及び能力，性格等について記入してください。


大学名又は研究科（学部）名

学長名又は研究科長（学部長）名

注) ※欄は記入しないでください。

平成 29 年度秋季入学・平成 30 年度春季入学  
弘前大学大学院理工学研究科（博士後期課程）

## 特別措置希望調書

		受験番号	※
ふりがな		生 年 月 日	性別
氏名		西暦 年 月 日 (満 歳)	男・女
志望専攻名	志望専攻分野名	希望する指導教員名	
入学年月	<input type="checkbox"/> 平成 29 年度秋季入学 <input type="checkbox"/> 平成 30 年度春季入学		
現住所	〒 — Tel( )-( )-( )		
勤務先	名 称 所在地 〒 — Tel( )-( )-( )		
特別措置を希望する理由			

注 1) ※欄は記入しないでください。

注 2) 特別措置を希望する場合は、予め希望する指導教員と相談の上、提出してください。

# 長期履修申請書

平成 年 月 日

弘前大学長 殿

申請者氏名 \_\_\_\_\_

所属研究科・専攻名

\_\_\_\_\_ 研究科 \_\_\_\_\_ 専攻

※学籍番号 \_\_\_\_\_

下記のとおり，長期履修学生となることを希望しますので，申請します。

## 記

### 1 長期履修期間

開始年次： \_\_\_\_\_ 年次から

期 間：西暦 \_\_\_\_\_ 年 月 日～西暦 \_\_\_\_\_ 年 月 日（ \_\_\_\_\_ 年間）

### 2 長期履修を希望する理由

※ 上記について了承します。

指導教員氏名 \_\_\_\_\_

（※は，入学前申請者不要）



平成 29 年度秋季入学・平成 30 年度春季入学  
弘前大学大学院理工学研究科博士後期課程

## 出願資格審査申請書

ふりがな		生年月日		性別
氏名		西暦 年 月 日 (満 歳)		男・女
志望専攻名	志望専攻分野名	希望する指導教員名	<input type="checkbox"/> 平成 29 年度秋季入学 <input type="checkbox"/> 平成 30 年度春季入学	
現住所	〒 _____ Tel ( _____ )-( _____ )-( _____ )			
国籍	*日本国籍を有しない者のみ記入			
勤務先	*有職者のみ記入 機関名・所属・職名 所在地 〒 _____ Tel ( _____ )-( _____ )-( _____ )			
期 間	学 歴			
年. 月 _____ 年. 月 _____ ~ ~ ~ ~ ~ ~	(高等学校以上の学歴を記入すること。外国人志願者は小学校から記入すること。)			
勤務期間	職 歴			
~ ~ ~ ~	(勤務先・主な職務内容を記入)			
年 月 _____	学会, その他における活動, 貢献, その他特記すべき事項			

入試課受付年月日	受付番号	添付書類確認欄
		<input type="checkbox"/> 卒業証明書 <input type="checkbox"/> 成績証明書 <input type="checkbox"/> 論文(著書)別刷 <input type="checkbox"/> その他

(裏面)

## 研究実績

### 1. 著書その他

学術論文題名, 著書, 学会, 討論会, 国際会議等での 研究発表題名及び特許・発明等の名称	発表論文誌の名称, 巻, 頁, 発表年 (印刷中または 投稿中の場合は, その旨を記入すること。)	共著者または共同発表 者氏名 (本人を含めて上 から発表順に記すこと。 )
	発表学会, 討論会, 国際会議等の名称及び発表年月	

### 2. 研究歴

所属機関・職名等	研究期間	研究テーマ及びその内容等

※記載欄が不足する場合は, 同様の形式により, 任意の用紙で提出してください。

**平成 29 年秋季入学・平成 30 年春季入学**  
**弘前大学大学院理工学研究科（博士後期課程）【協定校推薦特別選抜】**  
**検定料の払込みについて**

**留意事項**

1. 最寄りの郵便局・ゆうちょ銀行で「払込取扱票・振替払込請求書兼受領証」用紙に、志願者の住所・氏名等の他下記記入事項を記入し、所定の検定料を払い込んでください。  
検定料は必ず窓口で払い込み、ATM(現金自動預払機)は利用しないで下さい。  
払い込みにかかる料金は、志願者の負担となります。
2. 払込期間：平成 29 年 5 月 29 日～6 月 9 日（厳守）
3. 払込手続き後、日附印が押印された「振替払込請求書兼受領証」の写しを、本研究科所定用紙（志願票・受験票・払込請求書兼受領証(写) 貼付台紙）に貼付して提出してください。
4. 出願書類を受理した後は、次の場合を除き、いかなる理由があっても払込済みの入学検定料は返還しません。
  - (1) 入学検定料を払い込んだが、出願書類を提出しなかった場合
  - (2) 入学検定料を払い込んだが、出願が受理されなかった場合
  - (3) 誤って入学検定料を二重に払い込んだ場合上記(1)から(3)に該当する場合は、払込期間終了後 1 ヶ月以内に学務部入試課へお問い合わせください（任意様式）。

**問い合わせ先**

弘前大学学務部入試課 (TEL 0172-39-3973, 3193)

**「払込取扱票・振替払込請求書兼受領証」用紙 記入事項**

- ・ 口座記号番号欄 0 2 2 7 0 - 0 - 6 4 0 9 1
- ・ 金額欄 3 0, 0 0 0 円
- ・ 加入者名欄 弘前大学
- ・ 通信欄 入学検定料  
弘前大学大学院 理工学研究科（博士後期課程）【協定校推薦特別選抜】

# お 知 ら せ

## 理工学研究科博士後期課程ホームページ

理工学研究科に関する詳しい情報が掲載されています。

URL : <http://www.st.hirosaki-u.ac.jp/graduate/>

## 問い合わせ先一覧

事項	担当名	電話
○入学試験に関すること . . . . .	入試課・大学院担当	0172-39-3973・3193
○入学料及び授業料免除申請に関すること . . . . .	学生課・経済支援担当	0172-39-3117・3135
○学生寮に関すること . . . . .	学生課・課外教育担当	0172-39-3107
○教務に関すること . . . . .	理工学研究科・教務担当	0172-39-3930